

2027年度（令和9年度）  
第1回募集・第2回募集

福山市立大学大学院  
教育学研究科（修士課程）

# 学生募集要項

一般選抜

社会人特別選抜

現職保育者・教員等1年制プログラム

福山市立大学大学院  
教育学研究科

2026年（令和8年）6月発行

# 目 次

## I 福山市立大学大学院 教育学研究科（修士課程）の概要

1	アドミッションポリシー（入学者受入方針）	1
2	教育方法の特例措置及び長期履修制度について	1
3	研究指導分野の構成	2
4	教育課程の編成	3
5	授業科目の一覧	4
6	授業科目の概要	5
7	修了要件、学位、取得できる資格	10

## II 学生募集要項

1	募集人員	11
2	出願資格	11
3	出願手続	13
4	出願書類	16
5	受験票のダウンロード・印刷	17
6	入学検定料の返還について	18
7	入学者選抜方法	18
8	選抜試験の実施日程・時間割及び試験場	19
9	合格発表	22

## III 入学手続・納付金等

1	入学手続	23
2	納付金	24

## IV 各種支援制度

1	奨学金	24
2	福山市立大学修学奨励金	24
3	TA（ティーチングアシスタント）制度	24

## V 社会人を対象とする教育方法の特例措置及び長期履修制度について

1	教育方法の特例措置（大学院設置基準第14条特例の適用）	25
2	長期履修制度	25

## 資料

研究指導スケジュール	27
------------	----

※以下の様式は本学ホームページ上にてダウンロードしてください

- 研究計画書（全員）
- 履歴書（社会人特別選抜の志願者）
- 修学許可書（現職の教員・保育士や官公庁・会社等に在職のまま入学を希望する者）
- 長期履修学生希望願（社会人特別選抜の志願者のうちの希望者）

# I 福山市立大学大学院 教育学研究科（修士課程）の概要

本研究科は、乳幼児期から児童期にわたる子どもの成長と発達についての高度な専門的知識や探究力、教育・保育活動についての高い実践を生み出す研究力を備え、高度専門職業人として教育・保育の現場で指導的な役割を担える教育者・保育者の育成を目的としています。

## 1 アドミッションポリシー（入学者受入方針）

本研究科では、次の方針のもとに入学者を受け入れていきます。

【求める学生像】
大学の学士課程で学校教育や保育に関する基礎的素養を身に付けた人で、 ○学校教育の実践者として、さらに高度な専門的知識や探究力を身に付け、変化する時代の教育現場の担い手として、子どもたちの健やかな成長と発達に積極的に貢献する強い意欲のある人 ○保育活動の実践者として、さらに高度な専門的知識や探究力を身に付け、変化する時代の子育て支援の担い手として、子どもたちの健やかな成長と発達に積極的に貢献する強い意欲のある人 ○教育・保育関連の高度専門職業人をめざして、さらに高度な専門的知識や探究力を身に付け、変化する時代の学校教育や子育て支援の充実や変革に積極的に貢献する強い意欲のある人

【入学者選抜の基本方針】
○入学者の選抜は、一般選抜、社会人特別選抜、現職保育者・教員等1年制プログラムの3つの区分に分けて実施する。 ○いずれの選抜においても、出願時に入学後の研究計画書の提出を求める。 ○一般選抜では、筆記による学力検査、口述試験及び出願書類の審査結果に基づいて総合的に合否を判定する。口述試験では、研究計画書について試問する。 ○社会人特別選抜では、筆記による学力検査は課さず、教育・保育の内容に関連して出題する小論文、面接及び出願書類の審査結果に基づいて総合的に合否を判定する。面接では、研究計画書及び在職中の実績について試問する。 ○現職保育者・教員等1年制プログラムでは、研究計画書の評価、口述試験及び出願書類の審査結果に基づいて総合的に合否を判定する。口述試験では、研究計画、専門に関する知識等について試問する。

【入学者に期待する学力等】
○学校教育や保育に関する学士課程レベルの専門的知識を身に付けていること。 ○当該分野の専門的文献を読解し、論理的に思考し説明できる能力を身に付けていること。 ○自ら課題意識をもって研究課題を設定し研究計画を立案できる能力を身に付けていること。 ○高度専門職業人をめざして主体的に研究や実践に取り組む態度や姿勢を身に付けていること。

## 2 教育方法の特例措置及び長期履修制度について

本研究科では地域の要請に応え、現職の学校教員、保育士を含む社会人を積極的に受け入れ、地域の教育者・保育者等に対して資質向上に繋がる研修・研究の機会を提供しています。

社会人学生の修学の便宜を図るため、次の制度を用意しています。

【社会人特別選抜入学者、現職保育者・教員等1年制プログラム入学者】

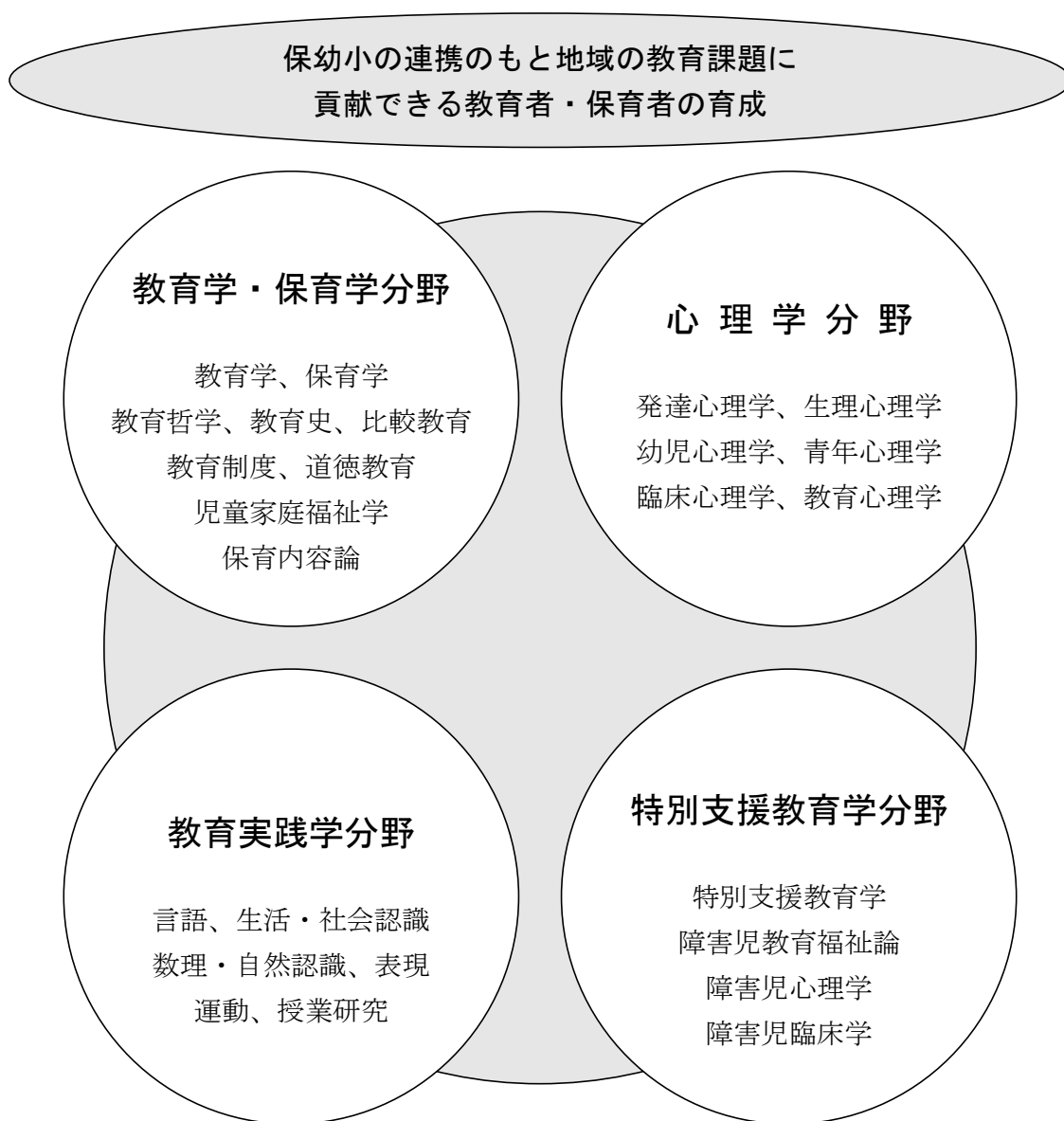
…教育方法の特例措置（大学院設置基準第14条特例の適用）

【社会人特別選抜入学者のみ】 …長期履修制度

### 3 研究指導分野の構成

本研究科では、教育・保育分野にわたる一体的な教育課程のもとに、子どもの成長や発達についての理解、家庭や地域の教育力の向上、特別支援教育の推進について、科学的観点からの高度な教育及び研究指導を進めます。家庭、地域、学校、施設等における子どもの教育・保育のあり方を中心に据え、教育学・保育学、心理学、教育実践学、特別支援教育学等を主な教育研究の対象とします。

#### 研究指導分野の構成【概念図】



- ・ 理論と実践の融合と総合化による自立的な対応力の育成
- ・ 高度な理論学習による問題の本質的理解のための能力の育成
- ・ 乳幼児期から児童期にわたる連続的な子どもの発達理解に基づく実践力

## 4 教育課程の編成

本研究科の教育課程は、基礎科目、基幹科目、応用科目、特別研究の4区分で編成しています。このうち、基幹科目は教育学・保育学、心理学、教育実践学及び特別支援教育学の4分野で編成しています。

### 教育課程【体系図】

特別研究 ※1	修士論文の作成			
	児童教育学特別研究Ⅰ ※2			
	児童教育学特別研究Ⅱ			
応用科目 ※1	教育・保育社会史研究 多文化保育研究 児童家庭福祉調査研究 心理学研究 心理学フィールド研究 教育実践研究 学習材開発研究 初等教育の理論と応用 芸術教育の理論と応用 特別支援教育学フィールド研究 児童教育学実践実習			
	教育学特講Ⅰ 教育学特講Ⅱ 保育学特講Ⅰ 保育学特講Ⅱ	発達科学特講Ⅰ 発達科学特講Ⅱ 発達科学特講Ⅲ 発達科学特講Ⅳ	教育実践学特講Ⅰ 教育実践学特講Ⅱ 教育実践学特講Ⅲ 教育実践学特講Ⅳ	特別支援教育学特講Ⅰ 特別支援教育学特講Ⅱ 特別支援教育学特講Ⅲ 特別支援教育学特講Ⅳ
基幹科目 ※1	教育学・保育学分野	心理学分野	教育実践学分野	特別支援教育学分野
基礎科目 ※1	児童教育学研究の基礎ⅠA 児童教育学研究の基礎ⅠB 児童教育学研究の基礎Ⅱ 児童教育学研究の基礎Ⅲ 児童教育学研究の基礎Ⅳ 児童教育学研究法の基礎			

※1 基礎科目及び基幹科目は講義科目、応用科目は演習科目、特別研究は研究指導科目（演習科目）として開設しています。

※2 現職保育者・教員等1年制プログラムの場合は、児童教育学特別研究Ⅰは含みません。

## 5 授業科目の一覧

2026年（令和8年）5月現在

科目区分	授業科目の名称	単位数		履修方法	
		必修	選択		
基礎科目	児童教育学研究の基礎ⅠA		2	4科目8単位以上を履修すること。	
	児童教育学研究の基礎ⅠB		2		
	児童教育学研究の基礎Ⅱ	2			
	児童教育学研究の基礎Ⅲ	2			
	児童教育学研究の基礎Ⅳ	2			
	児童教育学研究法の基礎		1		
基幹科目	教育学・保育学分野	教育学特講Ⅰ		2	基幹科目及び応用科目から7科目14単位以上を履修すること。ただし、基幹科目については4分野のうち特定の1分野から2科目4単位以上を含め、3科目6単位以上を履修すること。 現職保育者・教員等1年制プログラム対象者にとっては、基幹科目及び応用科目から9科目18単位以上を履修すること。ただし、基幹科目については4分野のうち特定の1分野から2科目4単位以上を含め、3科目6単位以上を履修すること。
		教育学特講Ⅱ		2	
		保育学特講Ⅰ		2	
		保育学特講Ⅱ		2	
	心理学分野	発達科学特講Ⅰ		2	
		発達科学特講Ⅱ		2	
		発達科学特講Ⅲ		2	
		発達科学特講Ⅳ		2	
	教育実践学分野	教育実践学特講Ⅰ		2	
		教育実践学特講Ⅱ		2	
		教育実践学特講Ⅲ		2	
		教育実践学特講Ⅳ		2	
	特別支援教育学分野	特別支援教育学特講Ⅰ		2	
		特別支援教育学特講Ⅱ		2	
		特別支援教育学特講Ⅲ		2	
		特別支援教育学特講Ⅳ		2	
応用科目	教育・保育社会史研究		2		
	多文化保育研究		2		
	児童家庭福祉調査研究		2		
	心理学研究		2		
	心理学フィールド研究		2		
	教育実践研究		2		
	学習材開発研究		2		
	初等教育の理論と応用		2		
	芸術教育の理論と応用		2		
	特別支援教育学フィールド研究		2		
	児童教育学実践実習		1		
特別研究	児童教育学特別研究Ⅰ	4		2科目8単位履修すること。現職保育者・教員等1年制プログラム対象者にとっては、児童教育学特別研究Ⅱを必修とし、1科目4単位履修すること。	
	児童教育学特別研究Ⅱ	4			

## 6 授業科目の概要

2026年(令和8年)5月現在

区分	授業科目	講義等の内容
基礎科目	児童教育学研究の基礎ⅠA 田中 直美	本授業では、教育理論をそれが基づいている人間理解や世界理解まで掘り下げることによって、「人間が人間になる」という人間形成の基本構造を理解する。そのさい、主に近代教育学を牽引してきたドイツ観念論の隠れた系譜としてのドイツ・ユダヤの対話思想を取り上げ、独話と対話の違いに着目しながら理解を深める。
	児童教育学研究の基礎ⅠB 加藤 望	この授業は、幼児教育・保育学に関する内容について就学前の子どもの発達や学び、幼児教育の方法や実際の保育実践、子ども理解のための方法や保育者の実践知、保護者支援について等、保育者としての専門性を深めるための科目である。なかでも保育実践研究に焦点をあてて理解を深め、現代社会に求められる保育者の専門性について考える。また、幼児教育・保育学の研究を進めるにあたり必要な倫理観についても理解する。
	児童教育学研究の基礎Ⅱ 平野 晋吾	心理学及び脳科学の実証的な研究から得られる知見を整理し、生物学的な変化を繰り返しながら、社会・文化的な枠組みとの相互作用の中で自立に向かう、人の発達についての理解を深める。知覚・注意・言語・運動・睡眠習慣等の発達のな特徴を学修し、心的活動をエビデンスに基づいて理解しようとする力を培う。
	児童教育学研究の基礎Ⅲ 林原 慎 瀧本 哲弘	本講義は、教育実践学研究に必要となる基礎的な研究力及び実践力を養うために、先行研究の事例から実践的・実証的な児童教育学について理解を深めていく。先行研究となる論文の検索及び収集、議論するために必要となるレジユメの作成など主体的な学習活動を行うとともに、論理的な分析をすることができるようグループダイナミックス(集団力学)を活用した授業を行う。
	児童教育学研究の基礎Ⅳ 吉井 涼 今中 博章	特別支援教育がインクルーシブ教育に発展することが予定されている現状において、特別支援教育の前段階である特殊教育及びその改革版である特別支援教育の理念・成果・課題と、インクルーシブ教育の理念と意義とを対照させて理解するとともにインクルーシブ教育の文化的・社会的制約についても学ぶことにより、児童教育学の基礎科目として、インクルーシブ教育の可能性と課題を正確に認識する。
	児童教育学研究法の基礎 野口 啓示 高澤 健司 松尾 浩一郎	本授業では、児童教育学における主要な研究法の基礎について学び、諸方法の意義と限界について理解を深めていく。併せて、各研究法に対応する量的・質的分析手法の概要についても学習し、履修者が自身の研究において用いる適切な研究法を選択できる力を身につけることを目指す。授業では、児童教育学領域の実際の研究を概観した後、文献研究の方法、実験法、質問紙調査法、観察法、参与観察、フィールドワーク、調査的面接法、実践研究を取り上げる予定である。
基幹科目	教育学 教育学特講Ⅰ 田中 直美	本授業では、人間形成論に関わる古典的なテキストの中で展開されている思想の人間形成論的な着想を理解する。そのさい、主に近代教育学を牽引してきたドイツ観念論や現代思想を手がかりに、人間の自由や道徳の根拠などについて考察する。テキストに書かれた内容を正確に理解するとともに、その内容と自身の研究内容を比較・検討することで、今日の教育・人間についての理解を深めていく。
	保育学分野 教育学特講Ⅱ 三山 緑	この授業では、教育行政学、制度研究の対象となる主要領域を網羅的に扱う。これにより、将来の研究活動における題材選定のための引き出しを増やし、また物事をとらえる視点を充実させる。授業で扱う内容は、国内・外の別にとらわれることなく取り上げ、随時文献資料を配布するなどの指示を出す。一方で、受講者の人数に応じて、文献収集・読解・要約、レジユメやPowerPointの作成、プレゼンテーションやグループワーク、討論などの活動を実施する。
	保育学特講Ⅰ 野口 啓示	高度経済成長の終焉とともに出て来た新しい社会問題を読み解くキーワードである「社会的排除」そして「社会的包摂」について、児童虐待問題をキー概念として、現代家族が抱える問題にアプローチする保育サービスについて理解を深め、実証的調査研究を検討する中で、保育サービスの今後の課題について学修する。授業では、「児童養護施設」「里親」「貧困」「児童虐待」「ペアレント・トレーニング」といったトピックを取り上げる。
	保育学特講Ⅱ 未定	保育・幼児教育における保育者の役割や専門性に関する諸文献・論文を取り上げ、読解や討議を通して、専門職としての保育者の子どもの関わり、保護者支援、地域や専門機関との連携、実践力向上のための園内外の研修などについて検討する。また、保育・幼児教育の思想や歴史、カリキュラムや保育方法、保育・幼児教育を取り巻く社会的状況についての理解を深めるとともに、保育・幼児教育の課題を実証的に研究する視点や方法を養っていく。

心理 学 分 野	<b>発達科学特講Ⅰ</b>  松尾 浩一郎	発達心理学研究の歴史においてブレークスルーを生んだ重要な研究について学習する。代表的な発達理論であるピアジェ、ヴィゴツキーの理論を学ぶとともに、発達における遺伝的要因と環境的要因の相互作用及び生涯発達の観点からふまえながら認知発達、社会性の発達、言語発達等の領域における重要な研究を理解し、各領域における研究の展開を把握する。
	<b>発達科学特講Ⅱ</b>  山田 真世	乳幼児の認知発達、コミュニケーションの発達及び障害による影響に関する最新の研究動向を紹介するとともに、表象発達に関する理論について検討する。また、これらの研究成果が、保育・教育実践に対して如何に寄与するのかといった、発達心理学における理論と実践との関連について検討する。これらの学修を通して、科学的研究としての発達心理学における認識論、研究方法論の習得をめざす。
	<b>発達科学特講Ⅲ</b>  平野 晋吾	睡眠と生活リズム、知覚・認知、注意、運動、精神の発達や障害といった心理事象をその生物学的基礎である脳の構造・機能との関連からアプローチする生理心理学分野の論文・著書を講読し読解する。特に、原著に親しむことで人間の心性とその発達に関わる研究方法を具体的に学修し、科学論文の基本構成についての理解を深めるとともに、研究能力の向上を図る。加えて、生理心理学の学術成果の社会的寄与について考察する。
	<b>発達科学特講Ⅳ</b>  未定	乳幼児期から児童期を中心とした子どもの心理的発達や心理的問題の形成に影響を与える要因について、発達精神病理学の観点から考える。また、臨床心理学的な観点から、発達のプロセスの中で生じてくる様々な子どもの心理的問題に対し、活用可能な支援方法について検討する。この講義を通して、子どもの心理的問題の形成に影響を与える様々な要因と問題形成のプロセスについて理解し、心理的支援を行っていくための視座を得ることをめざす。
教育 実 践 学 分 野	<b>教育実践学特講Ⅰ</b>  森 美智代	言語認知及び言語教育の諸問題について、様々な文化的背景を持つ地域の子どもたちを現状分析し、多文化共生の視点から今日的課題に取り組むために適した学習材の開発とカリキュラム研究を行う。言葉の教育とは何かという根源的な問題に対し、具体的な教材研究から、仮説としての教育実践を構想し、実施・検証するという教育実践学の手法を学ぶ。また、発達と教材の系統性から、仮説としてのカリキュラムを開発する視点を習得する。
	<b>教育実践学特講Ⅱ</b>  瀧本 哲弘	本講義では、生活・社会認識に関する先行研究を事例に用いて、多角的で複合的な議論を行う。生活・社会認識では実証的なプロセスによって実態を明らかにしていくことが求められるため、様々な研究手法を用いて、実践的な解析を行う。
	<b>教育実践学特講Ⅲ</b>  山中 真悟	本講義では、子どもの自然認識の特徴と、その特徴に応じた学習指導の理論と方法について学ぶ。具体的には、まず子どもの自然認識の特徴に関する理論や、具体的な分析方法を学ぶ。次に、自然認識の深化・拡充に必要な資質・能力を育成するための理論と方法について、いくつかの具体例を学ぶとともに、個々の課題意識に応じて具体的な研究計画の作成とその評価を行う。最後に教育現場での実践研究を意識した「アクションリサーチ」の手法を用いて、教育実践研究を行う。
	<b>教育実践学特講Ⅳ</b>  大庭 三枝	本講義では、幼児期の運動機能と身体表現の発達及び背景となる生活文化に関する深い洞察を基に、表現活動分析を基軸として幼児期から小学校へつながる保育内容・教育内容研究を深める。「表現」指導法を国際的（フランスを中心）に比較分析し、発達を見通した接続期（アプローチ、スタート）カリキュラムとこの時期に適した教材を開発する。発達保障の観点にたった表現教材開発力を身につけ、保育内容各領域から小学校教育内容への発展を可能にする接続期カリキュラムのマネジメント能力を養う。

特別支援教育学分野	特別支援教育学特講 I 吉井 涼	特別支援教育の目的と本質について、慈善事業からインクルーシブ教育的観点までの長期的スパン、先進国から途上国までの広範な空間、社会的・文化的観点から理解するとともに、通常教育及び社会における位置、最終的な目標について、21世紀における社会的変化を展望しながら、国際的に通用する日本独自の障害児教育のあり方を考察する。
	特別支援教育学特講 II 今中 博章	幼児期あるいは学齢期の早期から困難を抱える可能性が高い発達障害（知的障害を含む）のある子どもたちの心理特性についての理解を深めることを目的として、読み障害、ADHD、自閉スペクトラム症などの代表的な障害を取り上げ、これまで明らかにされてきた心理学的知見に基づいて解説する。また、それらの心理特性を踏まえたうえでの指導や支援のあり方についても考察する。
	特別支援教育学特講 III 伊澤 幸洋	発達障害は、その原因として脳神経学的な要因に基づく心理学的な病態と捉えられることができる。これまで主に成人の後天性の脳障害からの知見が集積され、発展してきた神経心理学的理論に依拠しつつ、そこに発達の観点を含めて各種の発達障害の理解を深める。知能の発達と衰退・変容、失語症と言語発達遅滞、失語・失読・失書と学習障害との関連などをテーマとして後天的障害と発達の障害を対比してその障害の相違を考察することで障害機序の理解につなげる。
	特別支援教育学特講 IV 吉田 耕平	特別支援教育学特講IVでは、主に児童福祉や障害者福祉など社会福祉分野の取組に注目しつつ、福祉と教育の連携に焦点をあて講義を行う。その中で、乳幼児期の母子保健制度から保育・療育制度への移行過程とその課題、保育・療育制度から就学期にかけての移行過程とその課題、学齢期の通常学校、特別支援学校と障害児の放課後対策との連携とその課題、特別支援学校から障害者福祉制度、就労支援制度への移行とその課題について、連携と移行支援の諸問題について考察を深める。
応用科目	教育・保育社会史研究 未定	近代社会において人間形成の営みや子どもへのまなざしがどのように変化してきたのか、文献講読と史資料読解を通して教育・保育の本質を探究する。教育・保育社会史研究の対象は、制度上に位置づく、あるいは施設・学校という建物・敷地の中で行われる教育・保育活動に限定されるものではない。授業では近年の研究動向を教員が解説し、受講者はその中から興味のあるテーマ・文献を選んで発表し、受講者同士で議論をして理解を深める。
	多文化保育研究 劉 郷英	グローバル化時代における保育現場の多文化現象について、理論的・実践的に探究し、多文化保育問題（多文化環境における子どもの保育及び異文化環境における子どもの保育の問題）について取り上げ、これらの問題を分析し、今後の課題を明らかにするための研究方法（文献研究方法、アンケート調査方法、フィールド調査方法等）を理解するとともに、実際に調査研究を行うことによって、「多文化保育研究」の方法を習得する。
	児童家庭福祉調査研究 野口 啓示	児童家庭福祉（子育て・子育て支援）に関する問題を取り上げ、これらの問題を分析し、今後の研究課題を明らかにするための研究方法（文献研究方法、調査研究方法等）を理解する。さらに、実際に調査計画を設計し、文献レビュー、データの収集と分析、そしてレポート作成と発表を通して、児童家庭福祉（子育て・子育て支援）実践の実証的調査研究方法の習得をめざす。
	心理学研究 高澤 健司	面接法や質問紙調査法など心理学で培われてきた研究方法について、その基礎と応用の理論的、実践的な理解を培いつつ、諸方法の意義と限界を幼児期から児童期並びに青年期に至る子どもの具体的な生活実態に対応させて吟味する。これにより、基幹科目で学修した知識を方法論的に肉付けし、修士論文の実証的研究に必要な実践的な方法論の修得をめざす。
	心理学フィールド研究 佐藤 奈月	フィールド研究に用いられる調査方法および倫理的配慮を習得する科目である。子どもの生活に応用可能な研究仮説を生成し、フィールド研究につなげるための基礎的素養を身につける。具体的には、実験や観察、面接、質問紙など従来の心理学で得られた知見を子どもの具体的な生活に即して検討し、研究の基本についての理解を深めることをめざす。

	<p><b>教育実践研究</b></p> <p>林原 慎</p>	<p>近年の教育・保育現場における課題について批判的思考を用いながら討議を行う。各回テーマを設定し、予め自分の立場を明らかにしたうえで議論を進め、他者の意見との交換を通じてどのように変化したかを振り返る。これまで常識として捉えていた概念を多面的・多角的に捉えなおすことで、教育・保育に関する諸問題に柔軟に対応する思考力と実践力を養う。</p>
	<p><b>学習材開発研究</b></p> <p>渡邊 真帆</p>	<p>保育実践及び初等教育の授業実践における学習材の特性を理解した上で、学習材を生かした活動や授業をデザインし、これからの保育実践及び授業実践の可能性を展望する。具体的には、先行研究や実践事例の検討から、多様な学習材の特性や工夫の方法について知見を得た上で、受講生自身が学習材を生かした活動や授業をデザインし、議論することによって知見を深める。以上を通して、学習材開発における基礎的知識や技能、及び子どもの発達や学習集団にとって適切な学習材のあり方を見出すための素養を身につける。</p>
	<p><b>初等教育の理論と応用</b></p> <p>太田 直樹</p>	<p>初等教育における教科教育学の理論を様々な研究領域とともに把握し、教育実践の場へ応用していく具体的な研究方法を検討していく。教育課程論・認識論・教育史・比較教育史など、初等教育における理論的背景を知り、多面的な視点を持った上で、数学教育学を中心とする授業開発・教材研究に応用する力をつける。具体的な学修方法は、教科教育学の具体的な知見について講義や討議、および、自立的に調査研究を作成・実施する演習も行う予定である。</p>
	<p><b>芸術教育の理論と応用</b></p> <p>古山 典子</p>	<p>「芸術」を保育や教科教育においてどのように扱うべきかについて考察するためには、そもそも「芸術とは何か」を問い、その上で「なぜ初等教育に芸術教育が必要なのか」を視点とする必要がある。ここでは、現在のさまざまな芸術のあり様を捉え、初等教育における芸術活動の内容を問い直すことを目的として、音楽創作や作品の批判的検討をはじめとする演習に取り組む。また、芸術にかかわる理論、とくに美学や芸術学の知見にも触れながら、現在の学習者を取り巻く環境を踏まえつつ、今後の芸術教育のあり方とその内容について考察し、芸術教育のカリキュラムを構想する力を養う。</p>
	<p><b>特別支援教育学フィールド研究</b></p> <p>伊澤 幸洋</p>	<p>保育及び学校教育における発達障害のある幼児・児童に対し、地域の保健福祉事業としてどのような支援のあり方が提供されているのかを文献や官公庁からの資料から考察する。また、インクルーシブな保育・教育の観点から、どのような実践を展開していく必要があるのかを検討する。加えて保育や学校教育での実践に関連して、既存の心理学的認知発達検査から見た発達障害の症候学的特徴を捉える能力、自らの視点で対象児に対して必要な検査を開発して適用し、さらに指導に生かす一連の技能を身に付ける。</p>
	<p><b>児童教育学実践実習</b> ※1</p> <p>長澤 貴</p>	<p>この授業では、実践者として研究することの方法と意義を実習を通じて理解することを目的とする。教師は、自らの実践のリフレクションを通して自らの実践を改善していくことが求められる。そして、自らの実践のリフレクションを通して新たな理論を生み出し、自らの実践と教室や学校の文化を変容させていくことに実践者として研究することの意義がある。以上のようなテーマのもと、この授業では、課題解決型学習（Problem Based Learning）とアクション・リサーチの方法を用いて学修する。</p>
特別研究	<p><b>児童教育学特別研究 I</b></p> <p>研究指導教員</p>	<p>修士論文作成の基盤形成のための授業である。院生が論文作成に必要な文献の収集と読解を通して、実証的な方法論についての基礎的なスキルと論理的で正確な論述の方法を習得し、研究課題を自ら検討するように指導する。院生は研究指導教員のいずれかを選択し履修する。</p>
	<p><b>児童教育学特別研究 II</b></p> <p>研究指導教員</p>	<p>基幹科目及び応用科目を通して修得した知識と手法をもとに、修士論文の作成に向けて院生が追求する研究課題の設定、研究課題追求のために必要な方法論及び論文執筆に必要な指導等を行う。院生は研究指導教員のいずれかを選択し履修する。</p>

※1 本授業を履修することで、教員（幼稚園教諭を含む）になった者に対する奨学金の返還免除制度の要件の一部を満たします。

## ・児童教育学特別研究Ⅰ・Ⅱ 研究指導教員

本研究科では、教育・保育を巡る課題の複雑化・多様化に対応するため、主指導教員1人、副指導教員1人からなる複数の指導体制の下で学生の指導にあたります。

1年次の4月当初に、出願時に提出された「研究計画書」をもとに学生との面談の上、指導教員2人（主指導教員1人、副指導教員1人）を決定します。

研究指導と学位授与までの主なスケジュールは、27・28ページの研究指導スケジュールを参照してください。

2026年（令和8年）5月現在

研究指導分野		研究指導教員
教育学・保育学分野	保育学	2027年4月着任予定
	児童家庭福祉学	野口 啓示
	比較教育	劉 郷英*
	幼児教育学	加藤 望*
	教育制度	三山 緑*
	保育内容論	米野 吉則*
	教育哲学	田中 直美*
心理学分野	発達心理学	松尾 浩一郎
	青年心理学	高澤 健司
	生理心理学	平野 晋吾
	幼児心理学	山田 真世
	教育心理学	佐藤 奈月*
	臨床心理学	未定
教育実践学分野	言語	森 美智代
	言語	渡邊 真帆*
	生活・社会認識	瀧本 哲弘*
	生活・社会認識	林原 慎
	数理・自然認識	太田 直樹*
	数理・自然認識	山中 真悟
	表現	大庭 三枝
	表現	古山 典子
	表現	渋谷 清*
	運動	山西 正記
	授業研究	長澤 貴*
特別支援教育学分野	障害児臨床学	伊澤 幸洋
	障害児心理学	今中 博章
	障害児教育福祉論	吉田 耕平*
	特別支援教育学	吉井 涼

〔注〕2027年（令和9年）4月以降の指導教員一覧です。\*の教員からは、副指導教員としてのみ指導を受けることができます。

指導教員の追加等も含め最新の情報は大学のホームページをご確認ください。

(URL : <https://www.fc.u.ac.jp/graduate/index.html>)

## 7 修了要件、学位、取得できる資格

### (1) 修了要件

#### ① 一般選抜、社会人特別選抜

2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者について、修士課程の修了を認定します。単位の修得については、基礎科目から8単位、基幹科目又は応用科目から14単位以上（うち、基幹科目は特定分野の2科目4単位を含め6単位以上）、特別研究8単位、計30単位以上を修得するものとします。

#### ② 現職保育者・教員等1年制プログラム

1年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者について、修士課程の修了を認定します。

単位の修得については、基礎科目から8単位、基幹科目又は応用科目から18単位以上（うち、基幹科目は特定分野の2科目4単位を含め6単位以上）、特別研究4単位、計30単位以上を修得するものとします。

科目区分	単位の修得要件	
	一般選抜、社会人特別選抜	現職保育者・教員等1年制プログラム
基礎科目	8単位	8単位
基幹科目	特定分野の2科目4単位を含め6単位以上	特定分野の2科目4単位を含め6単位以上
応用科目	14単位以上	18単位以上
特別研究	8単位	4単位 (児童教育学特別研究Ⅱ)
計	30単位以上	30単位以上

### (2) 学位

修士（児童教育学）【Master of Childhood Education】

### (3) 取得できる資格

幼稚園教諭一種免許状又は小学校教諭一種免許状を既に取得している者で、本研究科において所定の授業科目24単位以上を修得し、所定の修了要件を満たして修士の学位を授与された者は、幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状の取得ができます。

## II 学生募集要項

### 1 募集人員

(人)

専攻名	入学定員	各選抜区分における募集人員		
		一般選抜	社会人特別選抜	現職保育者・教員等 1年制プログラム
児童教育学専攻	8	8	若干名	若干名

【注1】 社会人特別選抜、現職保育者・教員等1年制プログラムの募集人員は、一般選抜の募集人員の内数とします。

【注2】 本研究科の学生募集は、第1回募集と第2回募集の2回実施をします。ただし、第1回募集で入学定員を充足した場合は、第2回募集を行わないことがあります。第2回募集の募集人員については、第1回募集の実施状況とあわせて、2026年（令和8年）11月頃に本学ホームページへ掲載します。

【注3】 入学定員及び募集人員は、第1回募集と第2回募集の合計人数です。

【注4】 入学志願者は、第1回募集と第2回募集のいずれか一方、または両方に出願することができます。

【注5】 入学時期は4月のみとなります。

### 2 出願資格

#### (1) 一般選抜

次の①～⑨のいずれかに該当する者

- ① 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2027年（令和9年）3月31日までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2027年（令和9年）3月31日までに学士の学位を授与される見込みの者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年（令和9年）3月31日までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年（令和9年）3月31日までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして、当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2027年（令和9年）3月31日までに修了見込みの者
- ⑥ 外国の大学その他の外国の学校において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年（令和9年）3月31日までに修了見込みの者
- ⑦ 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2027年（令和9年）3月31日までに修了見込みの者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- ⑨ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2027年（令和9年）3月31日までに満22歳に達している者

## (2) 社会人特別選抜

3年以上の社会人経験を有する者（注1）で、次の①～③のいずれかに該当する者

- ① 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2027年（令和9年）3月31日までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2027年（令和9年）3月31日までに学士の学位を授与される見込みの者
- ③ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2027年（令和9年）3月31日までに満22歳に達している者

注1 定時制、夜間、通信制の学校以外の学校（大学を含む。）の在学期間は、社会人としての経験年数に含まない。

## (3) 現職保育者・教員等1年制プログラム

3年以上の保育者・教員等としての勤務経験を有する者で、次の①から④のいずれか1つ、および⑤～⑥のすべてを満たす者

- ① 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2027年（令和9年）3月31日までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2027年（令和9年）3月31日までに学士の学位を授与される見込みの者
- ③ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2027年（令和9年）3月31日までに満22歳に達している者
- ④ 出願時において、児童福祉法第7条に規定する児童福祉施設の保育者等として、または学校教育法第1条に規定する学校の教員として勤務している者
- ⑤ 1年間で修士論文を作成できる保育・教育実践あるいは研究論文等の実績がすでに十分ある者
- ⑥ 志望する指導教員と研究計画等について事前に十分相談していること

## (4) 出願に係る事前相談について

事前相談締切	第1回募集…2026年（令和8年）7月24日（金）まで 第2回募集…2026年（令和8年）12月11日（金）まで
--------	---

次の項目に該当する人は、上記の期日までに事務局学務課入試担当まで事前相談をしてください。相談の内容によっては、本学の試験までに対応できない場合もありますので、なるべく早く相談してください。問い合わせ先については、巻末をご覧ください。

### ○入学資格審査について

前頁の（1）の⑨、上記の（2）の③及び（3）の③により入学資格の認定を受けようとする人は、事前に入学資格審査が必要です。「入学資格審査申請書」及び最終学歴など、大学を卒業した者と同等以上の学力があることを確認できる書類を揃えたうえ、期限内に必ず事前相談をしてください。提出書類については、事務局学務課入試担当までお問い合わせください。

### ○疾病・負傷や障がい等のある入学志願者の出願について

疾病・負傷や障がい等のある入学志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、できるだけ早い時期に事前相談をしてください。事前相談の期限後であっても、受験上及び修学上特別な配慮が必要となった場合は、その時点で速やかに申し出てください。

### ○外国人の入学志願者の出願について

本大学院の入学者選抜区分に私費外国人留学生選抜はありませんので、外国人の入学志願者については、入学資格の有無について事務局学務課入試担当まで事前相談をしてください。

## 3 出願手続

### (1) 出願期間

#### ○第1回募集

WEB出願登録及び 入学検定料の支払期間	2026年(令和8年) 8月21日(金)～8月27日(木)午後5時まで
出願書類の提出期間	2026年(令和8年) 8月21日(金)～8月27日(木)午後5時【必着】

#### ○第2回募集

WEB出願登録及び 入学検定料の支払期間	2027年(令和9年) 1月19日(火)～1月25日(月)午後5時まで
出願書類の提出期間	2027年(令和9年) 1月19日(火)～1月25日(月)午後5時【必着】

## (2) 出願前の事前準備

パソコン等の利用環境	<p><b>【PC 利用時推奨ブラウザ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ Microsoft Edge 最新版</li><li>・ Google Chrome 最新版</li><li>・ Mozilla Firefox 最新版</li><li>・ Apple Safari 最新版</li></ul> <p>※ブラウザのタブ機能を使用して、複数のタブで同時に申込操作を行いますと、選択した内容が他のタブに引き継がれてしまう等の不具合が発生する場合があります。複数タブでの同時申込操作は控えてください。</p>
メールアドレスの用意及び設定	<p>出願にはメールアドレスが必要となりますので、事前にメールアドレスを用意してください。</p> <p>入学願書等をプリントアウトするため、パソコンで使用できるメールアドレスを推奨しています。</p> <p>なお、ドメイン指定受信を設定されている方は、次のドメイン <b>【@e-apply.jp】</b> からのメールを受信できるように設定を追加してください。</p>
本人写真（データ）	<p>出願には志願者本人の顔写真データ（jpeg, png, bitmap, gif）が必要です。</p> <p>上半身・無帽・正面向き・無背景で、提出前3か月以内に撮影した鮮明な写真を準備してください。ファイルは2MBまでとします。</p> <p>入学後に学生証の顔写真データとしても使用します。</p> <p>なお、本人写真は、出願者本人を確認できるものとしてください。フィルターの使用や過度な画像加工により容貌を変更した写真は不可とします。本人確認が困難で出願写真として適切でないと判断された場合は、再提出となる場合があります。</p>
様式印刷の用意	<p>入学願書等を出力するため、A4普通紙にカラー印刷することができるカラープリンターが必要です。印刷用紙とともに用意してください。</p> <p>※公共施設やコンビニエンスストアの印刷サービスを利用しても構いません。（個人情報の取扱いには十分注意してください。）</p>

(3) 出願方法

出願登録はWEB出願のみで受け付けます。

WEB出願サイト <https://e-apply.jp/ds/fcu/>



手順 1	マイページへの登録	本学 WEB サイトから WEB 出願サイトにアクセスし必要事項を入力して登録を行ってください。
------	-----------	--



手順 2	出願内容の登録	WEB 出願サイトの画面に従って必要事項を入力して登録を行ってください。
------	---------	--------------------------------------



手順 3	入学検定料の支払い	WEB 出願サイトの指示に従って入学検定料 (30,000 円) を支払ってください。
------	-----------	---



手順 4	出願書類の印刷	出願登録、入学検定料の支払い後に入学願書を WEB 出願サイトより印刷し、その他研究計画書等 (本学ホームページ <a href="https://www.fcu.ac.jp/guide/graduate/dep/post_41.html">https://www.fcu.ac.jp/guide/graduate/dep/post_41.html</a> よりダウンロード) の必要書類についても作成・印刷をしてください。
------	---------	--



手順 5	出願書類の提出	角形 2 号封筒に WEB 出願サイトより印刷した宛名シートを貼り付けて、出願書類を同封して簡易書留速達郵便で郵送してください。(持参は不可) 提出先は巻末の「問い合わせ先」までとなります。
------	---------	--

#### 4 出願書類

書類等の名称	提出該当者	備考
①入学願書	全員	WEB 出願サイトで出願登録・入学検定料の支払い後に印刷できます。(A4・片面)
②履歴書	社会人特別選抜、 現職保育者・教員 等1年制プログラ ムの志願者	<b>本学所定の様式で</b> 、本学ホームページよりダウンロードし作成したもの。(A4・片面)
③研究計画書	全員	<b>本学所定の様式で</b> 、本学ホームページよりダウンロードし作成したもの。 ※様式は選抜区分により異なります。該当する選抜区分の様式を使用してください。 ※研究計画書を作成するにあたって、志望する研究分野の教員に提出前に相談することができます。ご希望の方は学務課(084-999-1113)までお問い合わせください。
④卒業(見込)証明書	出願資格(1)の①、 ③～⑧、(2)の①、 (3)の①に該当する者	出身大学長または学部長等が作成したもの。
⑤学位授与証明書 または学位授与申請 受理証明書	出願資格(1)の②、 (2)の②、(3)の② に該当する者	大学改革支援・学位授与機構が作成したもの。
⑥成績証明書	全員	出身大学長または学部長等が作成し、厳封したもの。 ※保存年限経過により証明書が発行できない場合は、学務課(084-999-1113)までお問い合わせください。
⑦修学許可書	現職の教員・保育 士や官公庁・会社 等に在職のまま入 学を希望する者	<b>本学所定の様式で</b> 、本学ホームページよりダウンロードし所属機関の長が作成したもの。(A4・片面)
⑧長期履修学生希 望願	社会人特別選抜の 志願者のうちの希 望者	<b>本学所定の様式で</b> 、本学ホームページよりダウンロードし作成したもの。(A4・片面) ※入学後、別途手続きが必要です。
⑨住民票記載事項 証明書又はパス ポートの写し	外国人の志願者	日本に在住する外国人は、市区町村長の発行のもので、国籍、在留資格及び住民日を明記した住民票記載事項証明書を提出してください。 在留資格がない者は、パスポートの写し(名前、生年月日、性別、発行国が記載された部分)を提出してください。
⑩宛名シート	全員	WEB 出願サイトから A4 サイズでカラー印刷をしてください。

※外国語で作成された書類には、必ず日本語訳を添付してください。厳封したのものについても開封してかまいません。

※証明書の姓名が現在と異なる場合は、本人であることを証明する書類(戸籍個人事項証明書、戸籍抄本等)をあわせて提出してください。

### (1) 出願上の注意事項

- ア 出願書類に不備がある場合は受理できませんので、出願の際には十分確認してください。
- イ 出願書類受理後は、記載事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所及び連絡先等に変更があった場合は、速やかに大学事務局学務課入試担当（084-999-1113）へ連絡してください。
- ウ 受理した出願書類は、返還しません。
- エ 出願書類の記載と相違する事実が発見された場合、入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。

### (2) 個人情報の利用について

本学では、出願書類から取得した個人情報及び入学試験の実施により取得した個人情報について、次の目的でのみ利用します。

- ア 入学者の選抜に関する業務、今後の入学者選抜方法及び学生募集・広報活動の改善に資するための分析資料として利用します。
- イ 入学者については、入学後の就学指導業務、学生支援業務及び授業料徴収業務等に利用します。

## 5 受験票のダウンロード・印刷

出願期間受付終了後、受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したメールアドレスへ通知します。受験票は必ず A4 用紙にカラー印刷をして、試験当日に持参してください。

### ○受験票に関する注意事項

- ア 受験票を印刷後、記載内容を必ず確認してください。出願登録した内容と異なっている場合は速やかに大学事務局学務課入試担当（084-999-1113）へ連絡してください。  
また、パソコン等の画面上の受験番号と、実際に印刷された受験票の受験番号が、一致していることを必ず確認してください。
- イ 合格発表及び入学手続において受験票が必要となりますので、必ず印刷して大切に保管してください。

## 6 入学検定料の返還について

出願後、一旦受理した入学検定料は返還しません。

ただし、次のいずれかに該当する場合は、入学検定料の全部又は一部の返還請求をすることができます。返還の請求は福山市立大学事務局学務課入試担当（084-999-1113）へお問い合わせください。

- ア 入学検定料を払い込んだが、出願しなかった（書類を提出しなかった）場合
- イ 出願資格を有していないため出願書類が受理されなかった場合
- ウ 入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合

## 7 入学者選抜方法

入学者の選抜は、一般選抜、社会人特別選抜、現職保育者・教員等1年制プログラムの3つの区分に分けて実施します。

### （1）一般選抜

一般選抜では、筆記による学力検査、口述試験及び出願書類の審査結果に基づいて総合的に合否を判定します。

学力検査	学校教育や保育に関する専門的知識と、論理的に思考し説明する力を評価します。	200点
口述試験 出願書類の 審査を含む	研究計画書に基づき、自ら課題意識をもって研究課題を設定し研究計画を立案できる能力及び主体的に研究や実践に取り組む態度や姿勢を評価します。	200点

### （2）社会人特別選抜

社会人特別選抜では、小論文、面接及び出願書類の審査結果に基づいて総合的に合否を判定します。

小論文	学校教育や保育に関する専門的知識と、論理的に思考し説明する能力を評価します。	200点
面接 出願書類の 審査を含む	研究計画書及び在職中の事績について試問し、自ら課題意識をもって研究課題を設定し研究計画を立案できる能力及び主体的に研究や実践に取り組む態度や姿勢を評価します。	段階 評価

### (3) 現職保育者・教員等1年制プログラム

現職保育者・教員等1年制プログラムでは、研究計画書の評価、口述試験及び出願書類の審査結果に基づいて総合的に合否を判定します。

研究計画書 その他の出願書類の審査を含む	研究計画書の内容及び研究への準備状況（研究計画に関連する先行業績を含む）から、研究計画の実現性について評価します。	200点
口述試験	研究計画、専門に関する知識等について試問し、自ら課題意識をもって研究課題を設定し研究計画を立案できる能力及び主体的に研究や実践に取り組む態度や姿勢を評価します。	100点

## 8 選抜試験の実施日程・時間割及び試験場

試験日	第1回募集…2026年（令和8年）9月15日（火） 第2回募集…2027年（令和9年）2月16日（火）
-----	--

時間割	10:40	10:50	12:20	13:10
一般選抜	10:40までに入室	諸注意	学力検査	口述試験
社会人特別選抜			小論文	面接
現職保育者・教員等1年制プログラム			口述試験	
			昼休憩	

試験場	所在地
福山市立大学港町キャンパス	福山市港町二丁目19番1号 (22 ページ試験場案内参照)

※時間割、試験場、所在地は第1回募集及び第2回募集共通です。

※受験者数等により、変更がある場合は、別途通知します。

○受験上の注意事項

ア 試験当日の来場は、公共交通機関を利用してください。試験場までの交通手段を事前に確認し、可能であれば下見をしてください。ただし、建物の下見はできません。

イ 試験当日は、「**本学の受験票**」を必ず持参してください。紛失又は忘れた場合には、早めに係員に申し出て、仮受験票の交付を受けてください。

ウ 午前10時40分までに、掲示により指定された試験室に入室してください。

エ 試験開始時刻に遅れたときは、開始時刻後20分以内の遅刻に限り受験を認めますので、監督者の指示に従ってください。ただし、試験時間の延長はしません。

オ 選抜試験の科目のうちいずれか一つでも受験しなかった場合は失格とします。

カ 試験室で使用できるものは、黒鉛筆、シャープペンシル、プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類は除く。）、時計（秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものを除く。）、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの。）、目薬です。

これら以外のものを特に使用したい者は、試験監督者の許可を受けてください。

キ 定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む。）、コンパス、電卓、そろばん、電子辞書、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、タブレット端末、ICレコーダーなどは使用できません。

音の出る機器や携帯電話等は試験室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってカバンに入れてください。マナーモードでの使用も認めません。また、携帯電話等を時計代わりに使用することも認めません。呼び出し音（マナーモードも含む。）が鳴った場合は、本人の了解を得ずにカバンを室外へ持ち出します。

ク 「耳せん」は監督者の指示等が聞き取れないことがあるので、使用できません。

ケ 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合せなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。

コ 不正行為があると認められた受験者には、直ちに受験を停止させ、退出を命じます。この場合、当該受験は失格とします。

サ 問い合わせは、福山市立大学事務局学務課入試担当（084-999-1113）へお願いします。

シ 「本学の受験票」は入学手続や個人成績の開示手続などの際に必要となりますので、試験終了後も大切に保管してください。

### (3) 不正行為

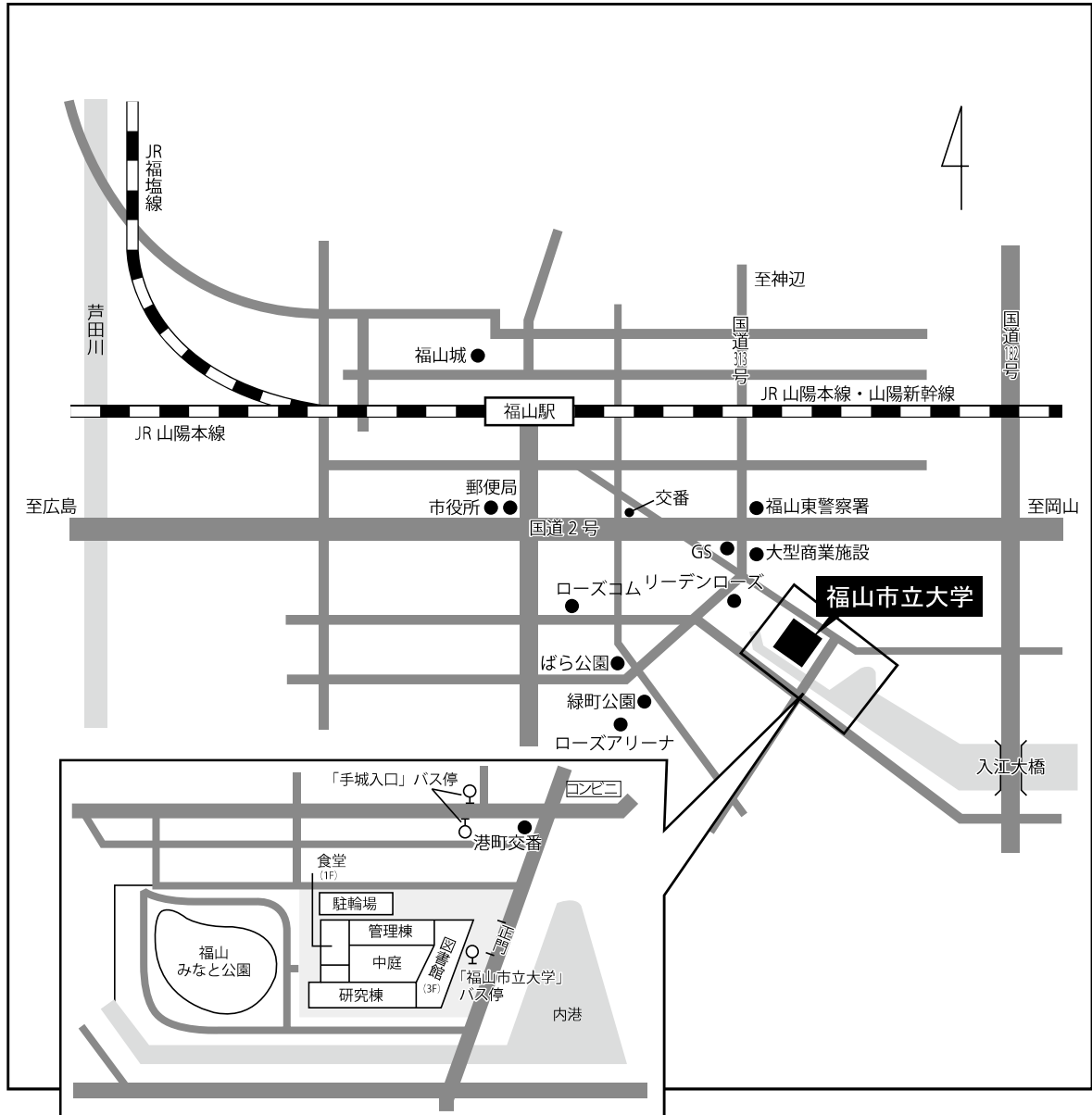
① 次のことをすると不正行為になります。

- ア 入学願書、受験票、解答用紙へ故意に虚偽の記入（本人以外の写真を使用することや解答用紙等に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。）をすること。
- イ カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること。）をすること。
- ウ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- エ 試験時間中に、問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- オ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- カ 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- キ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ク 試験時間中に、コンパス、電卓等の認めていない補助具を使用すること。
- ケ 「解答やめ。」の指示に従わず、筆記用具や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

② 上記①以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。

- ア 試験時間中に携帯電話等の電子機器類やコンパス、電卓等の補助具をカバン等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- イ 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信音・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ウ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- エ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- オ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- カ その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

(4) 試験場案内



○公共交通機関のご案内

J R福山駅南口バスのりば②番のりば

中国バス「手城経由鋼管病院行」で「福山市立大学」下車 徒歩0分

または「手城入口」下車 徒歩2分、片道170円

9 合格発表

一般選抜	第1回募集…2026年(令和8年)
社会人特別選抜	10月2日(金) 午前10時
現職保育者・教員等 1年制プログラム	第2回募集…2027年(令和9年) 3月1日(月) 午前10時

ア [福山市立大学ホームページ](https://www.fcu.ac.jp/) (https://www.fcu.ac.jp/) に掲載します。

イ 合格者には、入学手続サイトから合格通知書を通知します。

ウ 合否結果の電話等による照会には一切応じません。

### Ⅲ 入学手続・納付金等

#### 1 入学手続

##### (1) 入学手続期間

一般選抜	第1回募集…2026年(令和8年) 10月2日(金)～9日(金)【必着】
社会人特別選抜	第2回募集…2027年(令和9年) 3月1日(月)～10日(水)【必着】
現職保育者・教員等 1年制プログラム	

※入学手続締切日午後5時必着とします。(消印有効ではありませんので注意してください。)

##### (2) 入学手続方法

- ア 入学手続の詳細は、入学手続きサイトから通知します。
- イ 入学手続きサイトにおいて、入学手続情報の登録、入学料の納付を行ってください。
- ウ 入学手続きサイトから「宣誓書」を印刷・署名し、その他の必要書類を同封して入学手続期間までに到着するよう簡易書留速達郵便扱いにより郵送してください。(持参は不可)

##### (3) 入学手続上の注意事項

- ア 入学手続期間内に所定の手続を完了しない者は、入学を辞退したものと取り扱います。
- イ 必要な書類がすべてそろっていない場合は受付できませんので、書類の提出の際には十分確認してください。
- ウ 一度受付した入学手続書類及び入学料は返還しません。

## 2 納付金

### (1) 入学料

福山市内の者	253,800円
福山市内以外の者	423,000円

※福山市内の者とは、次のいずれかに該当する者をいいます。

ア 本人が入学の日の属する月の前年の同月初日から引き続き福山市内に住所を有する者

イ 配偶者又は1親等の親族が、入学の日の属する月の前年の同月初日から引き続き福山市内に住所を有する者

### (2) 入学後に必要な納付金

授業料	年間 535,800円
-----	-------------

※授業料の改定があれば、改定後の金額が適用されます。

## IV 各種支援制度

### 1 奨学金

本学では、日本学生支援機構奨学金を取り扱っています。受給の可否は本人や配偶者の所得額等によって変わってきますので、奨学金の活用を検討される方は本学学務課までお問い合わせください。

なお、教育学研究科は、「教員（幼稚園教諭・幼保連携型認定こども園教諭を含む）になった者に対する奨学金の返還免除制度」があります。

### 2 福山市立大学修学奨励金

各学年3名を対象として月5万円を支給する給付型奨学金制度です。手続方法や受給要件等については、本学学務課までお問い合わせください。

### 3 TA（ティーチングアシスタント）制度

本学では、実験授業、実習授業及び演習授業等に係る教育補助業務を行うティーチングアシスタント制度（以下「TA制度」と呼ぶ。）を導入しています。

TA制度はアシスタントの雇用を希望する教員と当該学生の指導教員の協議を経たうえで申請が可能です。当該制度を利用する学生に対しては、時間単価により賃金が支給されます。

## V 社会人を対象とする教育方法の特例措置及び長期履修制度について

### 1 教育方法の特例措置（大学院設置基準第14条特例の適用）

本研究科では、大学院設置基準第14条の定めに基づき、現職教員や保育士等が1年次はフルタイムで修学し、2年次は在職する学校や保育所等に勤務しながら授業及び研究指導を受ける教育方法の特例を適用しています。

大学院設置基準第14条特例の適用希望者は、その理由を添えて出願時に申告することが必要です。適用の可否は、入学後に研究科教授会において審査して決定します。

#### （1）修業年限

第14条特例適用者の修業年限は、原則として2年とします。

#### （2）履修指導、研究指導及び授業実施の方法

第14条特例適用者は、指導教員と相談のうえ、綿密に履修計画を作成し、各年度はじめに履修登録を申請するものとします。指導教員（主指導教員及び副指導教員）は、出願時に提出された研究計画書をもとに、第14条特例適用者の修学条件を考慮して、研究指導計画を立案し実施します。研究指導に当たっては、第14条特例適用者の実務経験と研究計画の関連に配慮するものとします。

修業年限2年のうち、1年次においては、職場を離れ、通常の間帯に開講される授業科目を履修することによって、単位を修得するものとします。2年次においては、職場に復帰し、勤務を続けながら、6時限（18:10～19:40）に開設する授業科目を履修するものとします。以上の授業の実施方法を基本としつつ、社会人学生の事情に応じて弾力的に運用します。

### 2 長期履修制度

本研究科では、大学院設置基準第3条の2の規定に基づき、職業を有している等の事情のため標準修業年限（2年）で修了することが困難な者を対象に、長期履修制度を設けています。本制度の適用が認められた場合、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することができます。本制度の適用者の授業料は、3年又は4年の長期履修であっても、2年分となります。

長期履修制度利用の正式な申請は入学後に行いますが、利用希望者は、出願時にその理由と履修計画を記入して申告することが必要です。長期履修制度利用の可否は、研究科教授会において入学後に提出された申請書類を審査して決定します。

### (1) 対象者

社会人特別選抜による受験者で、次の①～③のいずれかに該当する者

- ①職業を有している者
- ②家事、育児及び介護等を行う者で、学修時間の確保が著しく困難である者
- ③その他長期履修が必要となる特別な理由があると認められる者

### (2) 修業年限と授業料

長期履修学生の修業年限は、出願時の申告に基づき、3年又は4年となります。

この制度による授業料は、標準の修業年限分の授業料総額を、計画的に履修することが認められた一定の期間の年数で分割して納めることができます。

区分	1年目	2年目	3年目	4年目	合計
通常の場合	535,800	535,800	—	—	1,071,600
3年の長期履修の場合	357,200	357,200	357,200	—	1,071,600
4年の長期履修の場合	267,900	267,900	267,900	267,900	1,071,600

※授業料の改定があれば、改定後の金額が適用されます。

### (3) 履修指導、研究指導及び授業実施の方法

社会人特別選抜出願時に長期履修制度利用を希望し入学した者は、指導教員と履修計画等を綿密に相談のうえ、入学初年次の履修登録期間内に長期履修申請に必要な書類を提出し、履修登録を行うものとします。

この制度が利用可能とされた場合、指導教員（主指導教員及び副指導教員）は「長期履修計画書」等をもとに、本制度利用者の修学条件や3年又は4年の修業年限を考慮して、研究指導計画を立案し実施するものとします。

長期履修制度の趣旨、すなわち「職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する」ことに鑑み、1年間に登録できる履修単位数やTA（ティーチングアシスタント）制度の利用に、原則として制限があります。

※「1 教育方法の特例措置（大学院設置基準第14条特例の適用）」、「2 長期履修制度」とともに、制度の詳細については、福山市立大学事務局学務課（084-999-1113）までお問い合わせください。また、希望する指導教員との面談や、履修計画の相談にも応じますので、お気軽にお問い合わせください。

# 教育学研究科における研究指導スケジュール

日程	1 年目						2 年目					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
出願時	「児童教育学特別研究Ⅰ」の履修											
学生	「児童教育学特別研究Ⅱ」の履修											
指導教員	指導											
研究科教授会	研究											
○ 研究計画書の提出	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>○ 研究分野・指導教員の希望</p> <p>研究計画の立案</p> <p>○ 研究構想発表会</p> <p>研究の開始</p> <p>○ 研究経過報告会①</p> <p>○ 研究経過報告会②</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>↑</p> <p>↑</p> <p>↑</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>○ 研究計画（2年目）の発表</p> <p>○ 中間発表会①</p> <p>○ 中間発表会②</p> <p>○ 修士論文提出</p> <p>○ 修士論文題目届の提出</p> <p>○ 修士論文発表会</p> </div> </div>											
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>○ 研究分野・指導教員の決定</p> <p>○ 研究経過報告会①の報告</p> <p>○ 研究経過報告会②の報告</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>↑</p> <p>↑</p> <p>↑</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>履修計画についての指導</p> <p>研究課題についての指導</p> <p>研究計画についての指導</p> <p>研究実施についての指導</p> <p>研究計画（2年目）についての指導</p> <p>中間発表会①に向けての指導</p> <p>中間発表会②に向けての指導</p> <p>修士論文完成に向けての指導</p> <p>論文題目確定についての指導</p> </div> </div>											
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>○ 研究分野・指導教員の決定</p> <p>○ 研究経過報告会①の報告</p> <p>○ 研究経過報告会②の報告</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>↑</p> <p>↑</p> <p>↑</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>○ 修士論文題目の確認</p> <p>○ 修士論文審査委員会の編成</p> <p>○ 審査・副審査決定</p> <p>○ 修士論文の審査</p> <p>○ 最終試験の実施</p> <p>○ 修了判定</p> <p>○ 学位授与</p> </div> </div>											

【注】14条特例適用者についても同様の研究指導スケジュールとなります。

現職保育者・教員等1年制プログラム区分学生の研究指導スケジュール

		1 年 目											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日程	学 生	「児童教育学特別研究Ⅱ」の履修											
出願時	○ 研究計画書の提出	○ 研究分野・指導教員の希望											
		○ 研究分野・指導教員の希望	○ 研究構想発表会		○ 中間発表会		○ 修士論文題目届の提出	○ 修士論文提出	○ 修士論文発表会				
	指 導 教 員	研究課題・計画・実施についての指導 履修計画についての指導	中間発表会に向けての指導	論文題目確定についての指導	修士論文完成に向けての指導								
	研 究 科 教 授 会	研究分野・指導教員の決定					○ 主査・副査決定 ○ 修士論文審査委員会の編成 ○ 修士論文題目の確認	○ 最終試験の実施 ○ 修士論文の審査	○ 修了判定	○ 学位授与			

【注】14条特例適用者についても同様の研究指導スケジュールとなります。

## 福山市立大学への問い合わせ先

〒721-0964

広島県福山市港町二丁目19番1号

福山市立大学事務局学務課入試担当

電話 084-999-1113 (平日8:30~17:15)

FAX 084-928-1248

E-Mail nyushi@fcu.ac.jp

## WEB出願サイト及び操作に関する問い合わせ先

「学び・教育」出願・申込サービス サポートセンター (株式会社キャリアタス)

電話 0120-202-079

(平日10:00~18:00 ※出願期間中は24時間対応)

E-Mail cvs-web@career-tasu.co.jp

(平日10:00~17:00)